



田代 優之 Masayuki Tashiro

株式会社デンソー トヨタ部納入管理営業室2グループ  
(2007年経済学部卒業)

あきらめずに努力すれば、必ず実現できる!

—仕事内容は?

トヨタ向けの営業の仕事です。トヨタ部には200人近い社員がいて、見積もり専門の部隊と納入専門の部隊があります。私は、納入管理営業室で、新車開発に必要な部品の生産・納入スケジュールを管理し、顧客メーカーと自社工場との橋渡し役を担っています。



今は営業の仕事していますが、入社後2カ月間、工場での生産ラインに従事する工場実習があり、現場で油まみれになって、夜勤もこなしました。おかげで現場サイドの大変さが分かったので、工場に生産指示を出すときは、現場の人が働きやすいようアシストすることを意識しています。また、なるべく現場に足を運び、直接コミュニケーションを取るように心掛けています。

—仕事で大変だったことや、うれしかったことは?

以前担当していた車で、急に特別仕様車を出す企画が持ち上がり、開発期間ぎりぎりですべてのパーツを作ることができました。メーカーにも現場の製造部にも、何度も足を運んで連携を取り、なんとか納期に遅れることなく市場へ出すことができました。そうやって自分の携わった車が、ディーラーに展示されていたり、街で走っている姿を見かけたりすると、うれしいですね。

—学生時代にやっておけば良かったことは?

英語ですね。私が担当しているのは、ヨーロッパ向けの車種なので、トルコやイギリス、南アフリカなどの営業拠点と、テレビ会議やメールを通じてやりとりします。現地とのコミュニケーションには、どうしても英語が必要になります。入社してから学べますが、やはり学生時代に、英語をしっかり身に付けておけば良かったと思います。

将来は、もっと英語力を身に付けて海外へ赴任し、現地の社員やお客さまを相手に、仕事をしたいと考えています。今は、営業でも納入管理しか経験していないので、これからもっといろいろな仕事を体験して、営業のスペシャリストになることを目指していきます。

—大学時代の思い出は?

野球部でピッチャーをしていて、ずっと野球漬けの生活でした。一番の思い出は、広島六大学野球リーグの選抜チームに選ばれ、ハワイに遠征したことです。今も、会社の草野球チームで、野球を続けています。採用面接でも、野球を続けていく上での苦労や挫折した話を交え「あきらめずに努力すれば、必ず実現できる!」と話しました。

私は県外で就職活動を行っていたため、会社説明会や面接は県外であることが多く、移動と部活のスケジュール



の両立が大変でした。もっと早い時期から就職活動をしておけば良かったと思いますね。県外に友人がいるなら積極的に情報をもらい、いろいろな職種を見て、自分の就きたい仕事を見つけてください。

社会の第1線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことはまた「インターンシップ」。私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

# 羅針盤 O.B.&O.G 紹介

compass



—仕事内容は?

企業に対して、心理学を使ったコミュニケーションの指導や提案を行っています。自社では、以前は紙でやりとりしていた日報をIT化することで、データを共有し、リアルタイムに上司の指示を仰げる「日報IT」というシステムを2,000社以上の企業に導入していただいています。



でも仕組みを入れただけでは、使う側の社員のモチベーションが上がらないという問題は解決できません。そこで企業に向いて書き方をアドバイスし、心理学を使ったコミュニケーションの研修を企画し、その講師もしています。また、自社においては、採用・人事の仕事や、社内研修も担当しています。

—この仕事を選んだきっかけは?

もともと、多くの人を幸せにできるような仕事がしたいと思っていました。最初は教員志望でしたが、大学院1年の時、社会のことも知っておきたいと思い、就職活動をしました。そこで「企業を元気にして、働く人々を幸せにしたい」という自社のビジョンを知り、ピンときたんです。子どもを教育していくことも大切ですが、それより、働いている人たち、つまり親の側から影響を与えた方が、インパクトが大きいんじゃないかと。目指している方向は変わらないし、この会社で働いた方が楽しいだろうと思い入社を決めました。

友達に、よく「方向転換したね」と言われますが、そんなつもりはなく、目標に対するアプローチが変わっただけなんです。

—仕事のやりがいと将来の目標は?

企業経営にかかわる提案や支援をしていくので、責任感のいる仕事です。経営者の方に提案するときも、貴重な時間をいただいているので、それ以上の価値を提案するよう、時間に対する意識も高まりました。納得できる提案のストーリーを組み上げるために、夜遅くまで頭を悩ませることもありますし、土日に仕事をすることもあります。

私は、「ワーク・ライフ・バランス」って言葉は、あまり好

きじゃないんです。1日単位ではなく人生全体のバランスを見て、どうやって自分をブランディングしていくかという観点で仕事をしています。20代で自分の価値を高めて、30代で子育てをして、40代で復帰できるくらいの土台を今つっておきたいと思っています。世の中の人を幸せにしたいという、自分の目標につながることで、仕事がつらいと感じたことはないですね。

—先輩達にメッセージを!

「就職活動を安易に考えないで」と言いたいですね。普通は、どの会社を選ぶかと考えがちですが、実際の仕事や入社した会社のビジョンが自分の目標に合っていないと、入社後つらいと思

います。まずは、自分がどういう生き方をしたいか、どう年を取っていきたくかを考えて、仕事を選んだらいいんじゃないでしょうか。就職して1・2年で、この仕事は自分には向いていないと思ってほしくありません。そういう思いで仕事をしている時点で、本気でやっている同期と差がついてしまうのは、もったいないですよ。



小関 由佳 Yuka Ozeki

株式会社NIコンサルティング 組織心理コンサルタント  
(2006年教育学研究科修了)

多くの人を幸せにできる仕事がしたい

## 取材を終えて



「取材なんて初めてで…」と緊張されていた田代さん。でも、インタビューが始まると、とても丁寧に、かつ仕事に対する熱心な思いを話してくれました。僕も文系の学部ですが、製造業の仕事を志望しているのでも、それについての意見も聞くことができ、とても貴重な経験ができました。インタビュー後は、デンソーギャラリーを案内してくれ、とても気さくで優しい先輩という印象でした。

取材・記事/法学部1年 武林 賢明



とてもエネルギッシュで、しっかりしている小関さん。取材をしていて、本当に楽しかったです。また、自分の人生設計をきちんと立てていて、それに対して努力している姿勢に感激しました。僕も、自分がどんな人生を送りたいのか、もっと深く考えて、努力していきたいと思っています。

取材・記事/先端物質科学研究科M1 金山 浩輝